

千年の歴史を経て、
今に続く伝統



Kochi Prefecture's
Traditional Japanese Crafts
and Traditional Japanese Products

土佐和紙

T O S A W A S H I
Touch and Feel the Beauty of TOSA WASHI

高知県

高知県商工労働部工業振興課

〒780-8570 高知県高知市丸ノ内1丁目2番20号
TEL.088-823-9720 FAX.088-823-9261
E-mail:150501@ken.pref.kochi.lg.jp



土佐和紙の特徴

1000年以上の歴史があると言われる「土佐和紙」。
平安時代に完成した「延喜式」(927年)の中で、
国に紙を納めた主要産地国として土佐の名が登場
するのが、現存する最古の記録だ。「越前和紙」や
「美濃和紙」と並び、三大和紙の一つに数えられる
土佐和紙の特徴は、全国有数の和紙原料の生産、
優れた用具製作、均質な紙を漉く精巧な技術にあると
言える。先人からの技術を受け継ぎつつ、書道や版画
などの美術紙、インテリア構成材、歴史的価値のある
文化財や絵画の修復紙などの用途に合わせて、
「土佐典具帖紙」や「土佐清帳紙」など様々な和紙
が漉かれ、その種類は300を超えられている。

目次

～土佐和紙職人のご紹介～

<p>尾崎靖製紙所 尾崎 伸安</p> <p>代表的な和紙 大唐紙</p> <p>P.4</p>		<p>大勝 敬文</p> <p>代表的な和紙 胴貼紙</p> <p>P.10</p>	
<p>いの町紙の博物館 友草 喜美枝</p> <p>代表的な和紙 楮100%</p> <p>P.5</p>		<p>土佐和紙工房パピエ 森澤 真紀</p> <p>代表的な和紙 楮紙</p> <p>P.11</p>	
<p>田村和紙工房 田村 晴彦</p> <p>代表的な和紙 草木染</p> <p>P.6</p>		<p>紙匠 土居 毅</p> <p>代表的な和紙 障子紙</p> <p>P.12</p>	
<p>田村 亮二</p> <p>代表的な和紙 雁皮紙(薄口)</p> <p>P.7</p>		<p>石元常正製紙所 石元 健昇</p> <p>代表的な和紙 ㊦楮紙白 (お札用)厚口</p> <p>P.13</p>	
<p>紙工房 田村 寛</p> <p>代表的な和紙 落水紙(さざなみ)</p> <p>P.8</p>		<p>尾崎製紙所 片岡 あかり</p> <p>代表的な和紙 土佐清帳紙</p> <p>P.14</p>	
<p>井上手漉き工房 井上 登美子</p> <p>代表的な和紙 柿渋紙</p> <p>P.9</p>		<p>かみこや ロギール・ アウトエンボーガルト</p> <p>代表的な和紙 和蘭紙(木綿+三椏)</p> <p>P.15</p>	

こんなところで活躍する土佐和紙



ちぎり絵

染め和紙を手でちぎって貼る簡単な技法でありながら、繊細かつ高度な絵画表現も可能で、初心者からプロまで楽しめる。近年では天皇后両陛下への高知県からの献上品にも選ばれた。



腕時計 (The CITIZEN/ザ・シチズン)

土佐和紙の特徴の一つである薄さは、光発電を採用するシチズンの腕時計の文字板で活躍している。



インテリア雑貨

土佐和紙職人の中には自身の手漉き和紙を使ったインテリア作品を製作する方もおり、ナチュラル指向の顧客を中心に高い注目を集めている。



絵はがき

手漉きで製作された和紙はがきに、思い思いの画材で描いた作品。いの町紙の博物館では、毎年世界中から作品を募集して「はがき絵展」が開催されている。



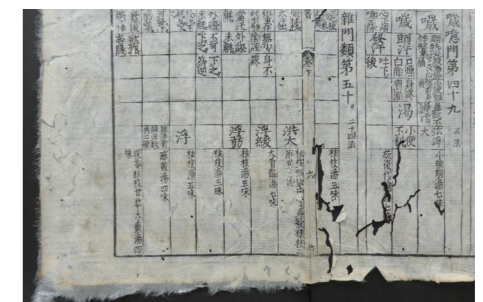
紙雑貨

カラフルに染色した和紙で作られた紙皿や名刺は、その華やかさが目を引く。



アート作品 (染色技術)

手漉き和紙職人の中には自ら作品を制作するアーティストとして活躍する方もいる。



修復紙

土佐和紙の薄くて丈夫という特徴を生かし、文化財の修復資材として活躍している。

尾崎靖製紙所

尾崎 伸安 尾崎 太一(研修生)

清流仁淀川を眼前に望む道の駅土佐和紙工芸村。尾崎靖製紙所の2代目である尾崎伸安さんは、その工芸村の和紙体験実習館で和紙づくりに励む。先代の靖さんが立ち上げた製紙所の後継者となることを決意し、この道に入ってから既に17年になる。修業時代は靖さんではなく、あえて地元他の職人から修行を受け、靖さんの手掛ける「土佐典具帖紙」とは異なる和紙も自分たちの製紙所に取り入れようと努めていたという。

内では主に尾崎さんがこのサイズの紙を扱っている。主な用途は水墨画や版画で、和紙問屋からも常に注文を抱えるほどの人気商品だ。また、伸安さんが手掛ける商品は原紙にとどまらず、楮三極、雁皮といった原料別の名刺、色鮮やかな紙皿といった紙雑貨など多岐にわたる。



大きな画仙判の桁を巧みに操り紙を漉く尾崎さん



左から杉皮紙、楮紙



色彩豊かな紙皿たち

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
大唐紙	楮+パルプ	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	75×143cm	表具・水墨画用紙
大唐紙判雁皮紙	フィリピン雁皮	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	75×143cm	版画用紙
三極紙(未晒)	三極	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	62×99cm	版画用紙
うすみの紙	タイ楮 (マニラ麻+パルプ)	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×97cm	表具用紙

※主に高知県産のものを使用

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL.088-893-0886

【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL.088-892-4170

友草喜美枝

いの町紙の博物館 実習室 販売コーナー

土佐和紙の歴史や製造工程を沢山の資料と体験を通して学ぶことができる、いの町紙の博物館。昭和60年の開館当時から同館の実習室で働き続けている友草喜美枝さんは、御年83歳。紙漉きの家に嫁いだのをきっかけに20歳の頃から紙を漉き続け、この道60年を超える大ベテランだ。小さな体からは想像できないほど軽やかな手つきで黄桁を振る、毎日米館者を楽しませている。「いい紙ができたときは本当に嬉しい」と愛嬌たっぷりの笑顔で語ってくれる姿には、こちらまで嬉しい気持ちになる。

そんな笑顔であふれる友草さんも、若い頃は寝る間もないほど忙しかつたと振り返る。家事に時間を取られる分、漉ける枚数は家族より少なくなるから。それでも、母親譲りという丁寧な仕事ぶり、

「お客さんが必要としてくれておかげで、今でも仕事を続けられていることに感謝。土佐楮100%使用の和紙を中心に、三極、雁皮、麻、パルプなど、様々な原料を使っている紙を漉いているから、興味のある人はぜひ立ち寄ってください。」ベテランの職人技を余すことなく見学でき、その場で購入もできる同館。友草さんが販売する商品は日によつて在庫も異なるため、何度も足を運べば新しい発見にも出会えることだろう。



毎日この場所に来館者の注目を集める



原料や製法ごとに原紙の販売も行う



友草さんの紙雑貨たち

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
楮100%	土佐楮	苛性ソーダ	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×93cm	障子紙 他
麻パルプ	麻+パルプ	苛性ソーダ	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×93cm	絵手紙、折り紙
短冊用和紙	麻(+楮)	苛性ソーダ	蒸気乾燥機(ステンレス)	7×37cm	短冊

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL.088-893-0886

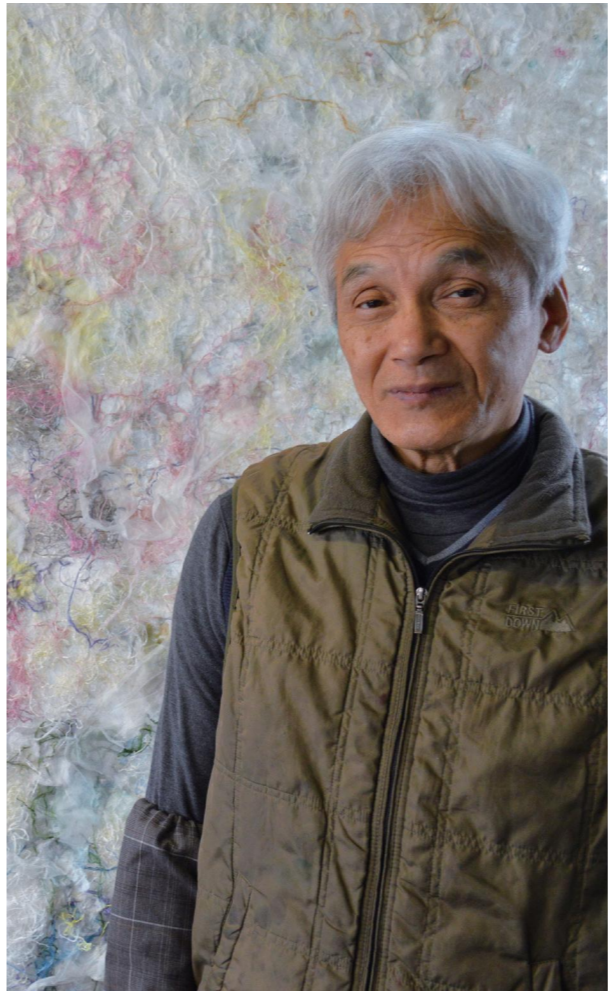
【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL.088-892-4170

田村和紙工房

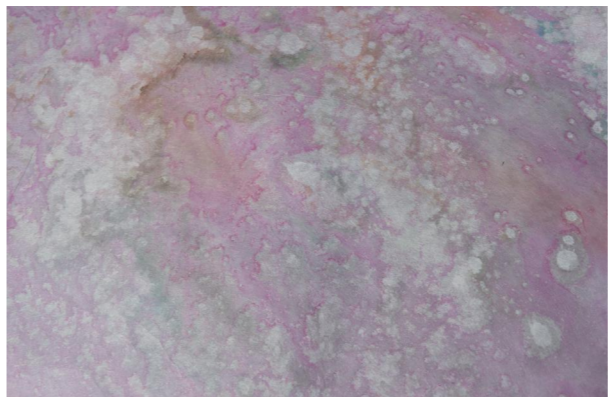
平成10年度「土佐の匠」認定 田村 晴彦

100年以上続く手漉きの製紙業を営む家に生まれ、後を継ぐために修業を始めたのは19歳の頃。昭和30〜40年代にかけて、周囲の手漉き和紙工房が次々に機械すきに転向していく中においても、田村さんのご両親は一枚一枚気持ちを込める手漉きにこだわった。その意思を継ぐこととなった田村さんは、先代からの図引紙に始まり、落水紙、ハガキ、短冊、色紙、名刺等々を漉いてきた。そして、次第に独自の染色方法による美術紙が中心となっていったという。「両親が寛容で、家業の手伝い以外には自分のやりたいことを自由にやらせてくれた。若い頃に染色技術や生け花の勉強ができたことで、個性的な染色や再びアートに挑戦できている」。そう語る田村さんの作業場の一角には、調色の研究を重ねる染料が所狭しと並び、常に新しい発色

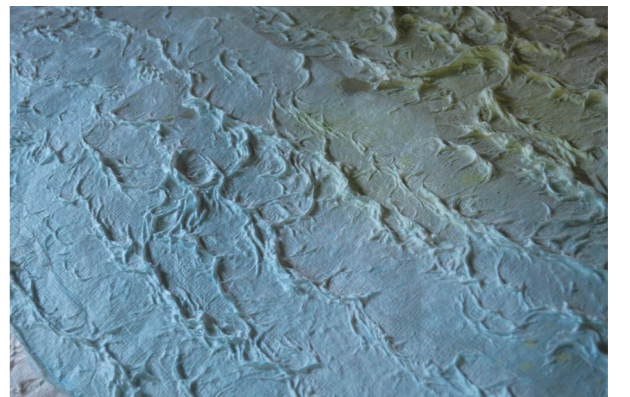
や染色技術を考えているというだけあって、天然素材から抽出した染料や顔料など、扱う染料は多岐にわたる。画材やラッピング資材としての用途が多い染紙は、淡い色合いの草木染や、一転、重厚感のあるダークカラーの顔料染など、一枚一枚が世界に2つとない1点ものだ。同じ染料で同じように染めても、まったく同じ柄は二度とできない。「思い通りイメージを再現できずに苦労することもありますが、一枚の紙をとおして自分の気持ちを自由に表現できるのがこの仕事の醍醐味」。年齢を重ねるにしたがって淡い色合いに落ち着いてきたそうで、作業場には白を基調に水色やピンクなど、淡く繊細な色遣いの作品が多く並び、眺めていると、その空間だけがゆっくりと流れているように、穏やかな気持ちにさせてくれた。



田村さんの作品は淡い色合いが美しい



椿夢幻染



立体的な模様が独特の雰囲気を出す

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
アート作品	楮+三椏	—	天日干し	100×200cm (他サイズ多数)	壁紙
草木染	楮+三椏	—	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×95cm	ちぎり絵、押し花、ラッピング、ディスプレイ、タペストリー、壁紙、書道など
椿夢幻染	楮+三椏	—	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×95cm	
変わり引き染	楮+三椏	—	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×95cm	
しわ加工染	楮+三椏	—	蒸気乾燥機(ステンレス)	63×95cm	

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886

【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

田村和紙工房／吾川郡いの町公園町23 TEL:088-892-0460

田村 亮二

平成25年度「土佐の匠」認定

土佐和紙職人を目指したきっかけは、天然の素材がもつ「ぬくもり」に心引かれたこと。四万十町出身の田村さんは高校卒業後、県外の自動車部品メーカーに7年間勤めた。毎日鉄を加工する製品開発に従事していたが、長い間金属にはない「ぬくもり」が感じられるものづくりをしたいと考えていたという。土佐和紙が後継者不足であることを知っていた田村さんは25歳でUターンを決意。1年後に高知県紙業試験場(現、高知県立紙産業技術センター)での半年間の研修を受けるチャンスを得た。その際の担当職員との出会いがきっかけとなり、現在も文化財等の修復用和紙を多く扱っているという。

1000年もつと言われる和紙本来の保存性の高さを追求するため、薬品は使わず乾燥も板干しでおこなうなど、昔ながらの製法にこだわっている。

1枚15kgもあるイチヨウの板数十枚に和紙を貼り付け移動させる作業は手間も労力もかかるが、文化財の修復にも使われる保存性の高い和紙を作るため、誇りを持って取り組んでいる。そうしたこだわりと高い技術が認められ、平成25年の「土佐の匠」に認定された。

土佐和紙職人の中でも雁皮紙を多く手がけることでも知られる田村さん。紙肌が滑らかで優美な光沢をもち、丈夫で虫の害にも強いのが特徴の雁皮紙は、修復用途に限らず版画家からの依頼も多い。そこで巡り会った版画家が、自分の和紙を大事にしてくれていると感じられる瞬間がこの仕事の醍醐味と語る。芸術家の目にも田村さんの和紙の「ぬくもり」が伝わっているに違いない。



手慣れた板付け作業。綺麗に貼り付けるには熟練の技が必要とされる



暖かい日差しの下でゆっくりと乾燥していく雁皮紙



左上から、黒白土入ガンビ、国産ガンビ(厚)、国産ガンビ(薄)

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ*	用途例
雁皮紙(白土、墨入)	国産雁皮	ソーダ灰	天日板干	55×100cm	修復 他
雁皮紙(薄/厚)	国産雁皮	ソーダ灰	天日板干	64×96cm	修復 他
土佐楮(炭カル入)	土佐楮	ソーダ灰	天日板干	64×96cm	修復 他
土佐楮(厚)	土佐楮	ソーダ灰	天日板干	64×96cm	修復 他
土佐楮:雁皮(厚)	楮+雁皮	ソーダ灰	天日板干	64×96cm	修復 他

*坪量は15~60g/m2まで原料種によって対応可能

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886

【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

紙工房

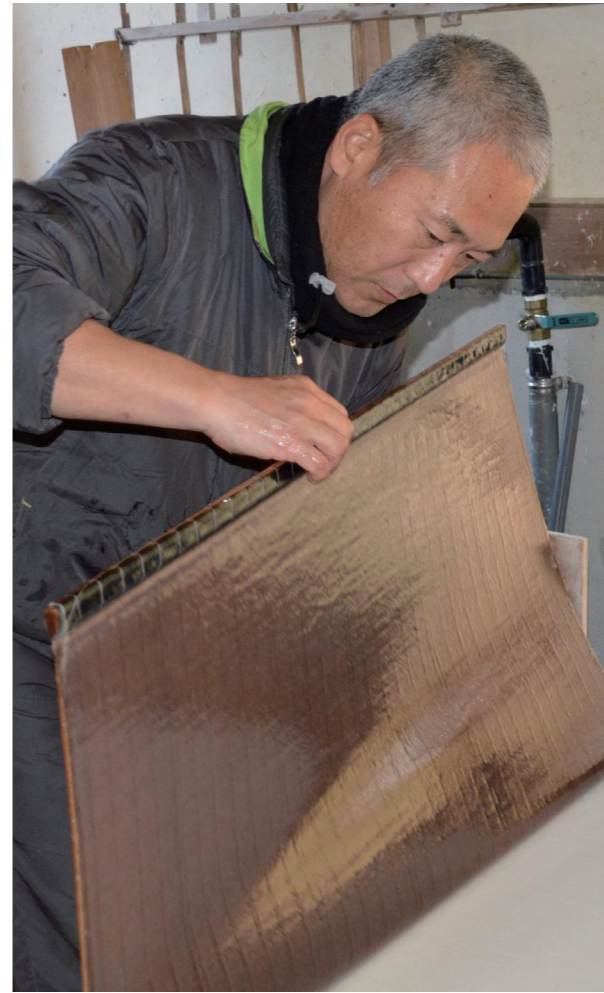
土佐和紙保存会会長 田村寛

土佐和紙工芸村の裏山に立つ工房で土佐和紙づくりに励む田村寛さん。もともと大工や杜氏に代表されるような自然の素材を扱う職人に興味があった。20代の頃に受けた土佐和紙工芸村での研修をきっかけに職人の道に入って25年。人それぞれの「ニーズに合った良い紙」を提供することで、お客さんに喜んでもらえることを第一に考えながら紙づくりに励む。版画や絵画などの美術用の紙から、ちぎり絵や押し花用の紙まで幅広く手掛け、長期保存性に優れた紙を作るために、「原料が持つ自然の力を弱めない紙づくり」を意識した工程にこだわる。基本的にはオーダーメイドの依頼が多いが、和紙の可能性を多くの人々に知ってもらいたいとの考えから、一般の方でも使いやすい名刺やハガキ、和綴じ帳といった商品の開発にも積極

極的に取り組んでいる。

「和紙は洋紙に比べて扱いづらい素材と認識されるのも無理はないが、そこですぐに投げ出さず、しばらく使ってみてほしい。」固定概念にとらわれずに素材感を楽しんでいれば、ベテランの芸術家であつても必ず新しい発見に出会うことができるのだという。

「如何に手間をかけずに良いものを作るか」ということばかりに重きが置かれ、デジタル化の一端をたどる現代の世の中。そういった価値観や意識を変えるのは簡単ではないと苦笑するが、学校への出前授業など、和紙文化の教育活動に積極的に取り組む田村さんの姿を見れば、未来を背負う子供たちの心に特別な価値観を生み出していると感じずにはいられない。



漉いた和紙を丁寧に紙床へ重ねていく



水を含んだ紙床



田村さんが手がける落水紙。上から時計回りにさざ波、うたかた、小雨

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料 ^{※1,2}	煮熟 ^{※3}	乾燥方法	大きさ ^{※4}	用途例
土佐楮紙白皮	国産楮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	表具・修復・版画用紙
土佐楮紙六分	国産楮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	修復・版画用紙
落水紙	国産楮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	57×78cm	美術工芸紙
版画用紙	国産楮・雁皮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	版画用紙

※1 主に高知県産楮、国産雁皮・三椏 ※2 用途、オーダーにより外国産原料(コウゾ、マニラ麻、木材/ハルブ等)を使い分ける。
 ※3 煮熟には、苛性ソーダも対応可能。原則、未漂白であるが漂白も可能 ※4 坪量は、10g/m²~対応

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886
 【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170
 紙工房 田村寛／吾川郡いの町鹿敷1226 ht.thomas626@gmail.com

井上手漉き工房

井上登美子 井上みどり(研修生)

「和紙は新草で漉いて、紙で枯らす。」代々紙漉きに伝わる言葉で、和紙は年月を重ねるほど余計な水分と不純物が抜け、しまりのある良い和紙になる。それを教えてくれたのは、井上手漉き工房で紙を漉き始めて16年あまりの井上登美子さん。文化財補修用の和紙を手掛け、文化庁の「選定保存技術保持者」にも選ばれた夫の稔夫さんが17年前に他界した後、自らが紙漉きとなって工房を切り盛りしてきた。「続けてこられたのは、紙漉きを丁寧に教えてくれた近所の職人さんと、私たちの紙がほしいと言ってくれるお客さんのおかげ。」と謙虚に語るが、その過程は決して楽なものではなかったはず。「井上手漉き工房を残す」という強い思いを胸に、並々ならぬ努力を続けた結果であることは想像に難しくない。そうした登美子さんの意思や技術を継ぎたい

と、現在は嫁であるみどりさんが、県の後継者育成制度を活用した2年間の長期研修を行っている。紙漉き技術の習得はもちろんのこと、和紙を使った雑貨の制作やワークショップの開催にも積極的に取り組み、自身の工房や和紙の魅力のPRにも情熱を注ぐ。そんな井上手漉き工房の和紙の中で、特におすすめしたいのが柿渋紙。地域で最初に制作に着手し、その製法は試行錯誤しながら編み出したということからも伺えるとおり、柿渋紙には強いこだわりを持つ。年月が経つにつれて徐々に褐色が濃くなっていくのが特徴の柿渋紙は、撥水性や耐久性に富み、使い込むほどに味が出てくる革製品のように経年変化を楽しむ使い方も可能。ぜひ、その変化をご自身の手で確かめてほしい。



紙を選別する井上さん



井上さんが手がける柿渋紙の乾燥風景



自慢の柿渋紙を貼ったうちわ

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料 ^{※1}	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
柿渋紙 ^{※2}	楮100%	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	表装/表具用
白楮紙(6分へくり)	楮100%	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	護摩祈禱用
黒楮紙	楮100%	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×98cm	提灯用

※1 主に高知県産を使用
 ※2 柿渋紙は作業時期で色合いが変化していく為、複数枚ご注文の際は微妙に色合いが違ってくる場合があります。

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886
 【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170
 井上手漉き工房／土佐市高岡町乙2776 TEL:088-852-0207

大勝 敬文

高知県手すき和紙協同組合理事長 平成13年度「土佐の匠」認定 平成23年度「高知県産業技術功労表彰」受賞

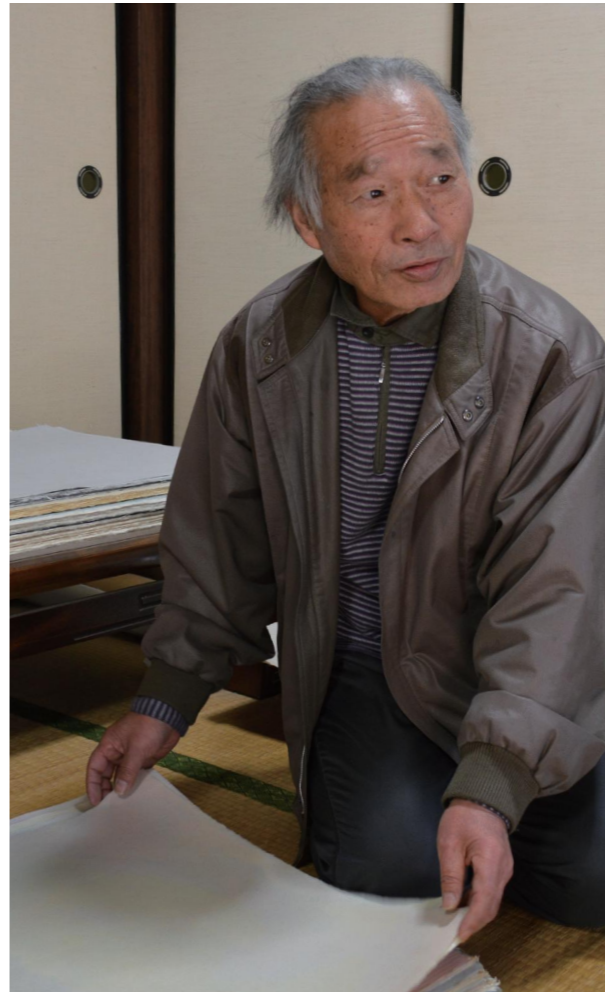
この道50年になる大勝さんを代表するのは、文化財修復に利用される「胴貼紙」*ふすまや屏風の骨組みに下貼りとして貼られる紙。タルクなどを配合することで、ふすまや屏風表面の紙を劣化させる原因となる木のアクを吸収し、表具自体を長持ちさせる効果を持つ。金閣寺や名古屋城といった、国の重要な建造物の修復にも多数利用されている。この胴貼紙を手漉きで手掛けているのは、大勝さんを含め全国でも2件しかないという。

若い頃に紙業試験場で紙を基礎から学び、多くの試作を経験してきたことで、顧客のどんな要望にも対応できるのが大勝さんの強みでもある。「自分の製品から不良品を出さないよう、責任をもつて紙づくりに取り組むことを常に心がけている。」と語る大勝さん。顧客の信頼に直結する品質管理には、一切の妥協を許さない。

平成16年からは高知県手すき和紙協同組合の理事長も務め、県内の組合加盟事業者をまとめることにも、和紙原料の不足や用具の確保、職人の後継者育成といった課題に注力する日々を過ごす。職人一人ひとりが異なる和紙を手掛けているため、全員の意見をひとつにまとめるのは容易でないこともあるが、「それだけ多くの種類を有しているからこそ、土佐和紙の強み」と語る姿からは、全組合員への信頼も感じられる。

自らが職人の世界に入った頃とは時代が変わり、原料の処理から和紙の乾燥、検品まで、全ての工程を一人で担わなければならなくなった。多忙を極め、時間にも余裕はないが、それでも新たな紙の試作に取り組むたいという意欲は、まだまだ若手の職人にも負けない。

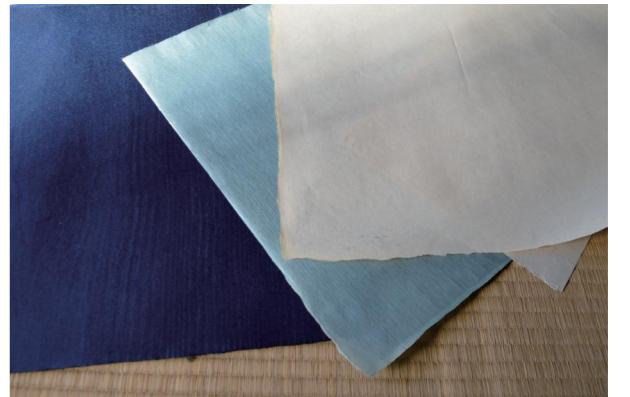
*食品添加物やチヨク、化粧品類の添え物として広く用いられる紙物。



和紙に対する豊富な経験と知識で、厚い信頼を得る大勝さん



大勝さんがこれまでに試作した和紙の一部



胴貼紙や紺紙たち

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法*	大きさ	用途例
胴貼紙	麻+楮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	57×100cm	表具
紺紙	楮+雁皮	ソーダ灰	蒸気乾燥(ステンレス)	33×67cm	写経

*板干(天日)もあり

【販売場所・問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

土佐和紙工房パピエ

高知市で和紙とその加工品を取り扱う専門店「土佐和紙工房パピエ」。その店長であり和紙の製作を担っているのが、20年程前に家業の紙漉きを継いだ4代目森澤真紀さん。幼い頃から、手漉き職人だった祖母が和紙を漉く音が大好きでその光景を見ながら育ち、時には原料処理や紙床の運搬を手伝うことは日常で、4代目として手漉き職人を目指そうと考えたことは自然の流れだった。

パピエでは、主に森澤さんの手漉き和紙を加工したオリジナル商品も数多く取り扱っているが、商品開発は苦労の連続だった。当初はお客様の希望に合わせて次々と商品を開発していたが、7年前の店舗リニューアルを機にスタッフ全員でイメージを共有する「架空の人物」を作り上げ、開発中の商品をその人物が好むかどうかを全員でとことん協議する

森澤 真紀

手法を取り入れることにより、商品ごとにテーマがぶれなくなり、取扱製品に安定感が生まれた。

生活に取り入れやすい和紙雑貨や手紙など、どれも魅力的な商品だが、その中でもおすすめなのが「白い手紙」。森澤さんが漉いた上質の便箋と封筒が、「Papier」の刻印入りの鉄の文箱に収められており、改まった手紙を書く時や、贈り物としても根強い人気商品の一つである。また、厚手でカラーバリエーションの豊富な壁紙も、家庭に和を彩るインテリアの一部として年代を問わずリピーターが多い。ラインナップ以外にも、依頼があれば特注の壁紙制作も可能なので是非相談してほしい。



楽しそうに作業しながら和紙の魅力を語ってくれる森澤さん



乾燥待ちのお酒のラベルたち



森澤さんおすすめの「白い手紙」。特注品という鉄製の文箱も趣がある

【代表的な取扱製品】

商品名	商品説明
白い手紙	高知県産の楮、三桮を使って森澤さんが1枚1枚丁寧に漉いた便箋と封筒が、鉄製の文箱に収められた商品。B5サイズの便箋50枚、三つ折り用の封筒10枚入。
壁紙	表面の大きめの凹凸やしわが印象的な厚手の和紙で作られた正方形の壁紙。カラーバリエーションも豊富で、壁をタイル状に彩れるのも魅力。インテリアとして一枚飾るだけでも、十分和の雰囲気を取り込むことができる。

【販売場所】 土佐和紙工房 パピエ／高知市はりまや町2-8-11 TEL:088-880-9185
<https://www.tosawashi-papier.net/>

【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

紙匠

令和元年度「土佐の匠」認定 土居毅

現在、希少な障子紙をはじめ、壁紙、版画、商品のラベル等、楮を主とする多種多様な土佐和紙を手がける職人の土居さん。元々県外のデザイン系の会社で働いていたが、平成8年に製紙業を営んでいた父親を手伝うためにUターンし、手漉き和紙職人に転身した。

楮を主とする各原料の特性を使い分け、長年培ってきた技術により、紙の用途や厚みによってさまざまな多様な土佐和紙をすき分ける技術に、温厚で真面目な人柄も相まって、各所からの人気も高く、全国から注文が殺到する状況が続く。大量の注文をこなすため、日に約250〜400枚をすくが、その丁寧で堅実な仕事ぶりは名高い。和紙の制作に追われる毎日を送りながらも、20年以上にわたり地元中学校で卒業証書の制作

指導者も務めている。地域の子ども達に手漉き和紙の魅力と伝統を伝え続けることで、その中から将来職人や和紙に携わる仕事を志す人が現れ、土佐和紙の普及につながってほしいと願い、今後も続けていくつもりだ。こうした功績や、日々爾々と仕事をこなし、技術の向上に努める姿勢が高く評価され、令和元年度の「土佐の匠」に認定された。

土居さんの和紙の特徴は、しつかりとした厚みがありつつも軽くて扱いやすいものが多いこと。代表的な製品は障子紙だが、ハガキや封筒、コースターといった紙雑貨も色彩豊かでおすすめの品ばかり。土居さんの紙雑貨を採す際は、自ら手漉きをイメージしてデザインしたというロゴマークにも注目してほしい。



穏やかな笑顔が印象的な土居さん。子供たちからも慕われている



いずれやってくる納品の日待つ和紙たち



左上から灰煮楮紙厚口、土佐楮生漉白

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
障子紙	楮+パルプ	苛性ソーダ	鉄板乾燥	99×64cm	障子用
土佐楮生漉白	土佐楮	苛性ソーダ	鉄板乾燥	99×64cm	障子用 他
灰煮楮紙厚口	タイ楮	ソーダ灰	鉄板乾燥	99×68cm	壁紙用 他

【販売場所】 いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886

【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170
紙匠／土佐市高岡町丙597 TEL:088-852-3758

石元常正製紙所

高知県手すき和紙協同組合 専務理事(平成18年度「土佐の匠」認定) 石元健昇

和紙の修業を始めた頃、県の紙業試験場で和紙を繊維の基礎から学んだことで、表具、壁紙、障子紙、美術紙、お札など多種多様な紙を漉けるのが強みという石元健昇さん。職人の世界では昔から「障子紙を漉けたらなんでも漉ける」とも言われる。この道30年になる石元さんは、紙のニーズに応じて原料や漉き方の方程式を組み立てることができる。初納品の際は顧客が求める紙の特徴を確認し、必ず試作品を提出してから本紙を漉く。ユーザーの期待に応えるために、決して省くことのない工程だ。和紙を漉くうえで「こだわりを聞く」と、「常に女性の粋な紙を漉くこと」と、「言葉が返ってくる」。「粋な紙」とは品質の高い紙のことを指し、昔から繊細で上質な紙は女性が漉いていたことに由来しているのだとか。また、石元さんは手すき和紙協同組合の専務理事という顔

も持つ。若手の職人には「自分のスタイルを確立する」とともに、いろんな紙をどんどん開発し、新たな発見を繰り返してほしい。」と期待を寄せている。地元中学校の卒業証書の制作指導にも携わるなど、長年の地域への貢献と技術の研鑽が高く評価され、平成18年度の土佐の匠に認定された。

「私は常々、和紙は人に使ってもらってこそ価値があると考えています。日頃から私の紙を必要としてくれる方々がいることに感謝しながら、人一倍厳しい基準を課して紙づくりに取り組んでいます。」二人ですべての工程をこなすために十分な在庫を持つ余裕がなく、納品に時間がかかってしまうのが申し訳ないと言います。それでも、芸術家たちから厚い信頼を受ける石元さんのもとには、途切れることなく注文が舞い込んでいる。



毎年恒例という卒業証書を漉く石元さん



紙床の状態の卒業証書



楮紙赤スジ流 カス入り

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
雁皮鳥の子	雁皮	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×100cm	版画・写真・アート用
㊦ 楮紙白(お札用)厚口	楮+パルプ	苛性ソーダ	蒸気乾燥(ステンレス)	64×100cm	お寺のお札、障子、版画 他

㊦=まるいし

【販売場所・問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合／吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

いの町紙の博物館／吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886

尾崎製紙所

独特の質感と温かな色合いを持ち、1000年長持ちする和紙として、書家や版画家、工芸作家の間で高い人気を誇る「土佐清帳紙」。楮を原料とし、トロロアオイの粘りを加え、スキの茎を継いで作られた萱簀で漉いた和紙である。これを受け継ぐのが、尾崎製紙所の4代目、片岡あかりさんだ。

片岡さんが4代目として生きていく決心をしたのは、「現代の名工」である祖父と「伝統工芸士」の母が招待されたカナダへの視察に同行した時。そこで尾崎製紙所の和紙を使い、版画で生計を立てるイヌイットから「尾崎製紙所の版画用紙は素晴らしい。今後も作り続けてほしい。」と言われたことに感動したのがきっかけだったそう。

尾崎製紙所は伝統の製法を受け継ぐだけでなく、原料である楮や三椏を栽培から行い、他の手漉き和

片岡あかり

紙職人にも栽培の指導を行っている。そして、品質を重視するため、生産量が限られてでも「寒漉き」にこだわる。気温が高いと水や湿気などの影響により紙質が変わってしまうからだ。

片岡さんの強みは、持ち前の明るさで多くの人々と交流を深め、ともに盛り上げ、行動に移せる力。近年は新たなユーザーの開拓のため、自分たちでワークショップも実施するようになった。そこでの参加者との出会いが、新たなイベントの企画を生み出すきっかけになったこともあるという。さらに、平成28年には念願のアンテナショップ「Kaji・House」もオープンさせた。「足を運んでくれる和紙マニアの方や移住者との交流をおして、さらに知識が増えた。」と笑う片岡さんは、今後もアンテナショップを活用した取組や商品開発など、やりたいことが尽きない。



品質にこだわりすぎ、検品で余計にハネ(B級品)を出してしまうと笑う片岡さん



Kaji-Houseでは県内の職人による工芸品なども販売する



四国88か所お遍路用の御朱印帳として人気に火が付いた納経帳

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料*	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
土佐清帳(誉)	楮+胡粉(ごぶん)	石灰	板干し(天日)	102×74cm	書道・版画用紙
清帳箋 全紙	楮+胡粉(ごぶん)	石灰	板干し(天日)	140×74cm	書道・版画用紙
清帳箋 大判	楮+胡粉(ごぶん)	石灰	板干し(天日)	183×63cm	書道・版画用紙
清光箋 全紙	国内産三椏	石灰	板干し(天日)	140×74cm	書道・版画用紙
清光箋 大判	国内産三椏	石灰	板干し(天日)	183×63cm	書道・版画用紙

*楮は自家製・手折、赤楮、要、青楮、那須楮、黒楮(6~7分へくり)

【販売場所】 尾崎製紙所 / 吾川郡仁淀川町岩戸253 TEL:090-8283-3832
 【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合 / 吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170

かみこや

平成19年度「土佐の匠」認定 ロギール・アウテンボーガルト

和紙の素材感に魅せられ、約40年前にオランダから日本に移住したロギール・アウテンボーガルトさん。25歳の頃、故郷でデザインや製本の仕事をする中、偶然手にした和紙に衝撃を受け、半年もたたないうちに来日。全国の和紙産地を旅しながら知識を増やしていた。高知への移住を決断した理由は、原料道具・紙漉き技術という和紙のすべてがそろった産地だったから。いの町や土佐市で修業を積み、平成4年に梶原町に移住した。かつて和紙原料の一大産地だった梶原町はきれいな水が豊富で、冬の寒さが長い。そのため、紙漉きには打って付けの環境なのだという。

ロギールさんの和紙作りは畑での原料栽培から始まる。自身が使う楮や三椏は、普段からお互いに助け合う地域住民の力も借りながら栽培している。紙漉き作業も、天日の板干しを採用するなど、できるだけ

自然に負担をかけない伝統的な製法にこだわる。その一方で、コットンと楮を混ぜて漉いた「和蘭紙」やアート作品のように、これまでにない新しい紙の表現にも積極的に取り組むことで、紙の可能性を広げる努力も続けている。

平成18年にオープンさせた紙漉き和紙体験民宿「かみこや」では、自ら紙漉きや作品を発表するだけでなく、国内外から紙漉きの体験希望者を受け入れ、和紙の魅力を伝える活動も行う。「かみこや」での体験を通して、歴史や文化も含めた和紙の本質をもっと知ってほしいし、自分も皆さんにそれを感じてもらえるような紙を作っていきたい。「流暢な日本語でそう語ってくれたロギールさんの中には、毎年春の訪れとともに、和紙に魅了された人々が足を運び始める。



和紙を漉くロギールさん



飲食店の照明として活躍するロギールさんの作品



インテリアとしてタイル状に並べた和紙。壁紙の見本にもなっている

【代表的な取扱製品】

紙の名称	原料*	煮熟	乾燥方法	大きさ	用途例
清帳紙	楮	石灰	板干し(天日)	38×103cm	書道
和蘭紙	(楮、三椏、雁皮)+木綿	石灰	板干し(天日)他	ハガキ~1×3m	インテリア内装材、美術用紙 他
オーダーメイドの和紙	楮、三椏、雁皮	石灰	板干し(天日)	ハガキ~1×3m	インテリア内装材、美術用紙、美術工芸紙(折り紙)
コットンペーパー	木綿	—	板干し	ハガキ~1×3m	アート、インテリア

*楮と三椏は自家栽培

【販売場所】 いの町紙の博物館 / 吾川郡いの町幸町110-1 TEL:088-893-0886
 マルシェ・ユスハラ / 高岡郡梶原町梶原1196-1 TEL:0889-65-1288
 【問合せ先】 高知県手すき和紙協同組合 / 吾川郡いの町波川287-4 TEL:088-892-4170
 かみこや / 高知県高岡郡梶原町太田戸1678 TEL:0889-68-0355 <https://kamikoya-washi.com/>



伝統的工芸品「土佐和紙」の振興を図るため、1985年に開館。
常設展は、和紙の歴史と文化、原料・用具などを展示、手すき実
演・体験コーナー、販売コーナーを備えています。展示室は、文化
活動の発表の場や国際的な展覧会など、企画展・特別展を随時
開催しています。

いの町紙の博物館
〒781-2103 高知県吾川郡いの町幸町110-1
TEL.088-893-0886 FAX.088-893-0887

